

経済・金融 フラッシュ

景気ウォッチャー調査 13年8月

～現状判断DI、先行き判断DIは共に低下基調が続くも
高水準を維持

経済研究部 研究員 押久保 直也

TEL:03-3512-1838 E-mail: oshikubo@nli-research.co.jp

景気ウォッチャー指数

	景気ウォッチャー調査 現状判断DI					景気ウォッチャー調査 先行き判断DI				
	原数値	(季節調整値)	家計動向関連	企業動向関連	雇用関連	原数値	(季節調整値)	家計動向関連	企業動向関連	雇用関連
12年8月	43.6	43.2	42.1	44.0	52.5	43.6	44.9	42.6	45.0	47.6
9月	41.2	42.9	40.2	40.0	50.8	43.5	45.7	44.1	41.3	44.9
10月	39.0	42.5	38.4	38.3	44.3	41.7	45.1	41.9	40.5	43.2
11月	40.0	44.0	39.2	40.6	44.5	41.9	46.7	42.0	41.9	41.2
12月	45.8	47.7	45.5	45.6	48.5	51.0	54.3	50.2	52.8	52.8
13年1月	49.5	52.4	48.3	50.2	55.3	56.5	56.7	55.4	58.6	58.9
2月	53.2	53.3	51.7	55.0	58.6	57.7	56.7	57.0	59.1	59.3
3月	57.3	52.9	56.9	56.1	63.1	57.5	54.6	57.0	57.3	60.9
4月	56.5	52.5	55.5	56.7	62.3	57.8	53.3	56.8	58.8	61.8
5月	55.7	53.7	54.4	57.1	61.7	56.2	52.8	55.0	57.6	61.0
6月	53.0	51.7	52.2	52.8	58.0	53.6	51.5	52.6	54.8	57.5
7月	52.3	50.6	50.6	54.5	58.1	53.6	53.0	52.0	56.1	58.6
8月	51.2	50.9	49.3	53.3	58.7	51.2	52.5	49.6	53.4	57.0

(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

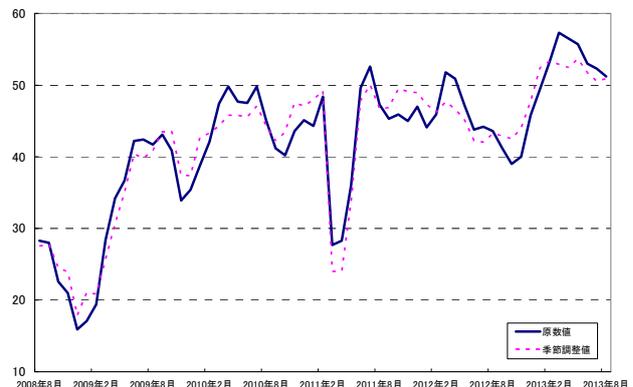
(注) 「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」は、各々家計動向関連業種（小売関連、飲食関連、サービス関連など）の景気判断、企業動向関連業種（製造業、非製造業など）の景気判断、雇用関連業種（人材派遣業、職業安定所など）の景気判断を示す。

1. 景気現状判断DI動向：5ヶ月連続の低下

9月9日に内閣府から発表された2013年8月の景気ウォッチャー調査によると、景気現状に対する判断DIは51.2となり、前月を1.1ポイント下回り5ヶ月連続の低下となったものの、水準自体は50を7ヶ月連続で上回った。一方、7月調査から参考系列として公表されている現状に対する判断DI（季節調整値）は50.9となり、前月を0.3ポイント上回り3ヶ月ぶりに上昇している。

項目別に見てみると、家計動向関連は、49.3ポイントと前月を1.3ポイント下回った上、水準自体も50を7ヶ月ぶりに下回った。その主な要因としては、①天候不順が続いたことで、客足が減少したこと、②スマホの夏モデル商品販売が低調だったこと、の2点が挙げられる。

景気現状判断DIの動向



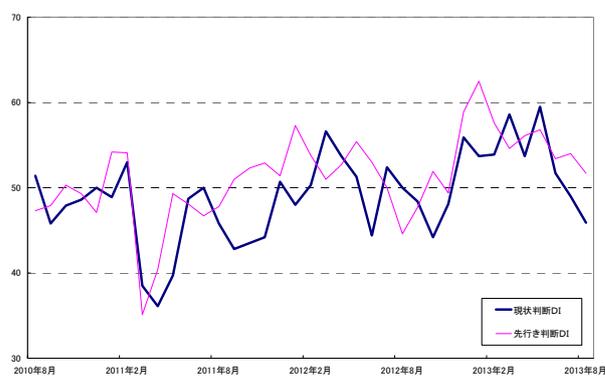
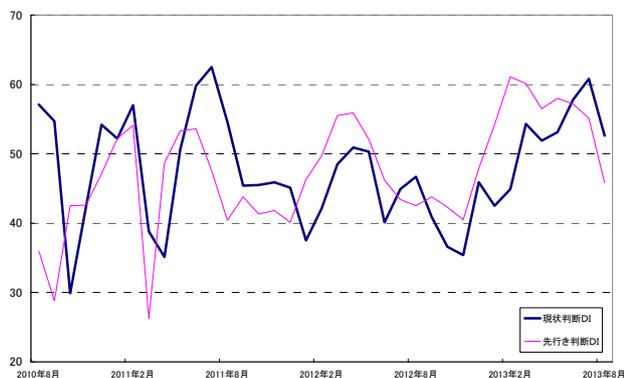
(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

①に関する具体的なコメントとしては、「前半は気温の上昇に伴い販売量も伸びていたが、お盆以降はゲリラ豪雨等の影響により伸び悩んでいる。」(南関東=コンビニ)や「猛暑を超えた酷暑で、テレビや新聞でも外出を控えるような報道がされており、客は屋外にレジャーに行こうという気にならないとみられる。」(北陸=レジャー施設関連)などがあり、コンビニエンスストアのDIは52.6ポイントと前月を8.2ポイント下回り、レジャー施設関連のDIは47.7ポイントと前月を4.5ポイント下回った。②に関する具体的なコメントとしては、「8月は、夏モデル商品の人気に陰りが見られ、販売台数が伸びず苦戦している。特に買換え需要が低調で、平日、週末とも来店客数の割には販売台数が伸びず。昨年を大きく下回っている。」(九州=通信会社)などがあり、通信会社のDIは45.9ポイントと前月を3.1ポイント下回った。

一方で、「各メーカーの新型車が続々と発表され、特にハイブリッドカー、軽自動車、輸入車等を検討するユーザーが多い。免税車、減税車も増え、グリーン化税制も継続中なので、今後もやや良い状況が継続する。」(南関東=乗用車・自動車備品販売店)など、新型車の販売が好調であり、乗用車・自動車備品販売店のDIは50.3ポイントと前月を2.5ポイント上回った。

コンビニエンスストア

通信会社



(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

企業動向関連は、53.3ポイントと前月を1.2ポイント下回った。これは「毎年8月はお盆休みの影響で2～3割ほど売上が落ち込む。今年はアベノミクスに期待していたが、例年と全く変化はなかった。むしろ原材料やその他経費の値上げがあってバランスシートは悪化している。」(南関東=プラスチック製品製造業)など、夏休み期間で営業日数が短い中、円安に伴う原材料価格上昇で製造業を中心に多くの企業の収益が圧迫されていることの影響と思われる。

雇用関連は、58.7ポイントと前月を0.6ポイント上回った。これは「建設業界、介護福祉業界を筆頭に、企業の募集意欲は相変わらず高い。また、それにけん引されるように飲食業界などのサービス業界の募集意欲も高い。」(北海道=求人情報誌制作会社)など、住宅投資への消費増税前の駆け込み需要、高齢化の進展に伴う介護需要の増加を背景として、建設業や介護業界を中心に求人が増加したことが影響しているとみられる。

また、地域別に見てみると、景気の現状に対する判断DIは全国11地域中8地域で対前月比低下し、3地域で対前月比上昇した。最も低下したのは中国(2.4ポイント低下)、最も上昇したのは沖縄(7.4ポイント上昇)であった。中国は、豪雨による被害が大きかった影響と思われる。一方、沖縄は、台風が上陸しなかったことで観光業が好調だった影響とみられる。

2. 景気の先行き判断 DI 動向： 2ヶ月ぶりの低下

景気の先行きに対する判断 DI は 51.2 と 2ヶ月ぶりに前月から低下したものの、水準自体は 50 を 9ヶ月連続で上回った。また先行きに対する判断 DI（季節調整値）は 52.5 となり、前月を 0.5 ポイント下回り 2ヶ月ぶりに低下したものの、水準自体は 50 を 9ヶ月連続で上回っている。

項目別に見てみると、家計動向関連は、49.6 と前月を 2.4 ポイント下回った上、水準自体も 50 を 9ヶ月ぶりに下回った。「消費税増税前の高額品を中心とした購買増加と、アベノミクスによる成長戦略への具体的な動きへの期待感が

高まる」（九州＝百貨店）など、引き続きアベノミクスや消費税増税前の駆け込み需要への強い期待感がみられるものの、円安を主因とした生活必需品の値上げや消費税によるマインド低下懸念が下押し要因となっている。具体的なコメントとしては、「食料原価の値上げと客の節約志向で客単価が上がらず、今後も厳しい状況が続く。」（中国＝コンビニ）や「電気料金の値上げや消費税増税、円安の影響等により、これから客の財布のひもはますます固くなる。」（北海道＝スーパー）などがあつた。

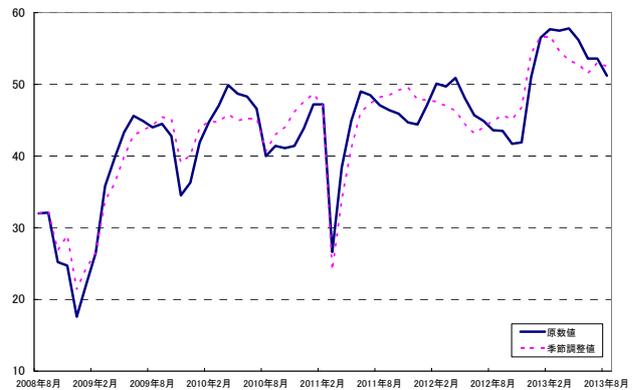
企業動向関連は、53.4 ポイントと前月を 2.7 ポイント下回った。これは「電気料金や燃料費、資材などの仕入れ材料が高騰しており、商品の値上げが続く。消費者購買意欲が低下してしばらく悪くなる。」（九州＝輸送業）などから、円安に伴うコスト増加を主因として多くの企業で収益悪化が懸念されている影響と考えられる。

雇用関連は、57.0 ポイントと前月を 1.6 ポイント下回った。これは消費税増税後、価格転嫁が進まないことを主因として中小企業を中心に倒産が増えるという懸念によるものと思われる。

また、地域別に見てみると、景気の先行きに対する判断 DI は全国 11 地域全てで対前月比低下した。最も低下幅の大きかったのは北海道（5.0 ポイント低下）、最も低下幅が小さかったのは近畿（0.6 ポイント低下）であった。北海道は、干ばつの影響を受け、オホーツク地域の農産物の生育が遅れていることから、景気の先行き判断 DI が最も低下している。

2013 年 8 月の調査では現状判断 DI は 5ヶ月連続で低下し、先行き判断 DI は 2ヶ月ぶりに低下したものの、DI の水準自体は 50 を上回っており、引き続き高かった。生活必需品、電気料金の値上げ等による家計圧迫懸念の高まりなど不安材料があるものの、アベノミクスによる実体経済の本格的な回復が引き続き期待されるなど、景況感の改善基調は緩やかながらも維持されている。

景気の先行き判断 DI の動向



（資料）内閣府「景気ウォッチャー調査」